



# 平成28年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月15日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社メタップス  
 コード番号 6172 URL <http://corp.metaps.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 航陽  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 山崎 祐一郎

TEL 03-5325-6280

四半期報告書提出予定日 平成28年7月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年8月期第3四半期の連結業績(平成27年9月1日～平成28年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年8月期第3四半期	5,596	88.7	△395	—	△513	—	△705	—
27年8月期第3四半期	2,966	—	△258	—	△257	—	△278	—

(注) 包括利益 28年8月期第3四半期 △936百万円 (—%) 27年8月期第3四半期 △274百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年8月期第3四半期	△56.15	—
27年8月期第3四半期	△31.00	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年8月期第3四半期	15,488	7,296	45.6
27年8月期	9,295	8,020	86.0

(参考) 自己資本 28年8月期第3四半期 7,065百万円 27年8月期 7,992百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年8月期	—	0.00	—		

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

## 3. 平成28年8月期の連結業績予想(平成27年9月1日～平成28年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	
	百万円	%
通期	9,000	118.1

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

このほかに、当社は、平成28年8月期の業績予想として、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を掲げています。詳細は、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 2社 (社名) Nextapps Inc.、パイデザイン株式会社、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年8月期3Q	12,719,810 株	27年8月期	12,332,310 株
② 期末自己株式数	28年8月期3Q	— 株	27年8月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年8月期3Q	12,560,977 株	27年8月期3Q	8,971,589 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(以下「当四半期」という。)における我が国経済は、雇用環境には回復の兆しがみられるものの、個人所得の伸び悩みにより個人消費の停滞が続いています。また設備投資も、海外経済の先行き不透明感の強まりや、金融市場の混乱を受けた企業の投資慎重化を背景に、力強さを欠く状況にあり、年初からの円高進行を受けた企業収益の下振れや在庫調整圧力の持続、熊本地震の影響も加わり、当面は停滞感の強い状況が続く見通しです。

このような状況の中、主力のアプリ収益化事業は、国内外共に売上が継続して好調であり、注力サービスであるアプリ収益化プラットフォーム“metaps”などの既存サービスが堅調に推移しています。また、本年度中は積極的な企業買収及び事業提携を行って参りました。中でも、直近発表したビカム株式会社やペイデザイン株式会社は事業規模も大きく、既存事業との中長期的な相乗効果のみならず、短期的な売上への貢献も見込まれます。一方、決済プラットフォーム“SPIKE”をはじめとする新規サービス開発のための先行投資を積極的に実施したこと、企業買収及び組織再編に係る販管費の増加等により引き続き営業損失を計上しております。これらの結果、売上高は5,596,651千円(前年同期比88.7%増)、営業損失は395,375千円(前年同期は258,641千円の損失)、経常損失は513,785千円(前年同期は257,453千円の損失)となりました。また、無形固定資産の減損損失を特別損失に計上したこと等が影響し、親会社株主に帰属する四半期純損失は705,247千円(前年同期は278,093千円の損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が7,057,702千円、売掛金が1,062,016千円、未収入金が3,043,799千円、のれんが3,064,578千円となり、合計15,488,989千円となりました。これは、Nextapps Inc. 及びペイデザイン株式会社等が当社の連結の範囲に含まれたことにより、未収入金が2,956,566千円、のれんが3,064,578千円増加したことが主な要因であります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、買掛金が987,886千円、1年内返済予定の長期借入金853,120千円、預り金が4,497,550千円、長期借入金1,358,680千円となり、合計8,192,530千円となりました。これは主に、Nextapps Inc. 株式取得に係る借入等により、1年内返済予定の長期借入金が853,120千円、長期借入金1,358,680千円増加したこと及びペイデザイン株式会社等を連結の範囲に含めたこと等により、預り金が4,231,404千円増加したことによるものです。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上705,247千円等により、合計7,296,458千円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年10月14日の「平成27年8月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、Nextapps Inc. を、当第3四半期連結会計期間において、ペイデザイン株式会社を、株式取得により連結の範囲に含めております。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## 会計方針の変更

## (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平

成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第3四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、上場以来継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、同事象は「提出会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象」に該当します。しかしながら当社は、当第3四半期連結会計期間末において現金及び預金7,057百万円を保有し、必要な運転資金を確保していることから、以下に記載の諸施策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しており、「継続企業の前提に関する事項」の記載には至っておりません。業績黒字化を達成し、当該重要事象等が早期に解消されるよう取り組んでまいります。

#### ① 海外市場への対応

アプリ収益化事業の発展には、継続してグローバル展開を進めることが不可欠であり、海外での事業拡大を加速化するために、既に収益化が順調に進んでいる中華圏及び東南アジア地域における事業展開の強化と、欧州地域における体制強化を行ってまいります。事業展開の強化の一環として、日本流の押しつけでなく、それぞれの地域に応じたプロモーションロジックの構築と、現地責任者・スタッフのローカル採用強化を継続して行ってまいります。同時に、日本やシンガポールなど、先行して事業展開を行っている地域が培ったオペレーションノウハウをグローバルで共有し、「効率化」・「標準化」・「スピード化」を意識し取り組んでまいります。

#### ② 開発スピード強化への対応

既存プロダクトのシステム稼働は安定していますが、インターネット領域における目まぐるしい変化スピードに対応していくためには、常に新しいプロダクトを創造し続ける必要があります。また、グローバルでユーザを獲得するためには今まで以上にプロダクトに高い質と信頼が求められます。そのため、多言語化に対応できるシステム開発や仕様作成を進める一方で、情報漏えい、情報セキュリティ面でのリスク対応強化についても並行して進められるよう、引き続き優秀な技術者の確保、職場環境の改善に努めてまいります。

#### ③ 組織体制の整備

当社グループは成長段階にあり、業務運営の効率化やリスク管理のための内部管理体制の強化が重要な課題であると考えております。このため、バックオフィス業務の整備を推進し、経営の公正性・透明性を確保するための内部管理体制強化に取り組んでまいります。具体的には、業務運営上のリスクを把握してリスク管理を適切に運用すること、定期的な内部監査の実施によるコンプライアンス体制の強化、監査役監査の実施によるコーポレート・ガバナンス機能の充実などを行っていく方針であります。

#### ④ 経営体制の強化対応

インターネット業界においては、事業に関連する技術革新のスピードや顧客ニーズの変化が速く、それに基づく新サービスが常に生み出されております。これらの最新のニーズを的確に察知し、迅速な意思決定を行える体制を整えることで、常に市場をリードしていくことが当社の成長につながります。これを実現するために、各国ユーザのニーズを的確に察知できるグローバルな人材の確保を行える体制を構築してまいります。

#### ⑤ 新規事業の展開について

当社グループの展開するアプリ収益化事業の属するインターネット業界は、急速な進化、拡大を続けており、事業に関連する技術革新のスピードや顧客ニーズの変化が速いため、当社グループにおいても顧客のニーズを満たす新サービスの展開を常に検討しております。このような環境下において、当社グループでは、オンライン決済プラットフォーム“SPIKE”において利用可能な資金決済法に基づく電子コインの発行や動画サービスなどの新たな事業展開を随時開始しており、今後も、Metaps Analyticsをウェアラブルやロボットなどの様々なデバイスに対応させるなど、データを競争力として積極的な事業展開を進めていく方針であります。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,783,420	7,057,702
売掛金	719,906	1,062,016
未収入金	87,233	3,043,799
その他	171,670	243,330
貸倒引当金	-	△634
流動資産合計	8,762,230	11,406,214
固定資産		
有形固定資産	41,167	80,172
無形固定資産		
のれん	-	3,064,578
その他	403,291	633,443
無形固定資産合計	403,291	3,698,021
投資その他の資産		
その他	56,284	282,867
貸倒引当金	-	△23
投資その他の資産合計	56,284	282,843
固定資産合計	500,743	4,061,037
繰延資産	32,059	21,738
資産合計	9,295,033	15,488,989
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	660,172	987,886
1年内返済予定の長期借入金	-	853,120
預り金	266,146	4,497,550
引当金	155	72,467
その他	337,073	322,760
流動負債合計	1,263,547	6,733,784
固定負債		
長期借入金	-	1,358,680
退職給付に係る負債	2,831	17,931
その他	8,113	82,134
固定負債合計	10,945	1,458,745
負債合計	1,274,493	8,192,530

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628,469	4,645,237
資本剰余金	4,617,471	4,633,035
利益剰余金	△1,260,352	△1,965,764
株主資本合計	7,985,588	7,312,509
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,774	△246,681
退職給付に係る調整累計額	-	△643
その他の包括利益累計額合計	6,774	△247,325
新株予約権	-	76,356
非支配株主持分	28,176	154,918
純資産合計	8,020,540	7,296,458
負債純資産合計	9,295,033	15,488,989

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)
売上高	2,966,088	5,596,651
売上原価	2,540,238	4,695,238
売上総利益	425,849	901,413
販売費及び一般管理費	684,491	1,296,788
営業損失(△)	△258,641	△395,375
営業外収益		
持分法による投資利益	—	2,309
その他	39,326	9,390
営業外収益合計	39,326	11,700
営業外費用		
為替差損	—	100,679
その他	38,137	29,430
営業外費用合計	38,137	130,110
経常損失(△)	△257,453	△513,785
特別損失		
減損損失	—	82,523
本社移転費用	8,345	—
買収関連費用	—	10,672
特別損失合計	8,345	93,196
税金等調整前四半期純損失(△)	△265,798	△606,981
法人税、住民税及び事業税	12,571	63,311
法人税等調整額	—	△2,351
四半期純損失(△)	△278,370	△667,941
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△276	37,306
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△278,093	△705,247



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)
四半期純損失(△)	△278,370	△667,941
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,099	△267,196
退職給付に係る調整額	—	△1,262
その他の包括利益合計	4,099	△268,458
四半期包括利益	△274,270	△936,400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△273,993	△959,348
非支配株主に係る四半期包括利益	△276	22,948

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

- I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)  
当社グループは、アプリ収益化事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。
  
- II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年9月1日至平成28年5月31日)  
当社グループは、アプリ収益化事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。